

( 下川前書き )

CODIはタイの政府機関です。CODIについてご存知ない方は、まずHP上の『2003年2月27日～3月7日のタイ訪問の日記から暫定的に抜粋したメモ』を参照ください。また、当日の講演の主たる内容は、タイ政府が最近新たにはじめたバンマンコン・プログラムの説明が主でした。これについて詳細を知りたい方は、以下のHPを参照ください。[http://www.achr.net/bann\\_mankong.htm](http://www.achr.net/bann_mankong.htm) )

CODIの代表者であるスムスクさんが東洋大学に来られ、講演をして下さいました。これは、その時のまとめとお話を伺った感想です。

スムスクさんは元々建築の専門家だった。でも人々の自主的な活動の楽しさに気づき、この活動を始めたという。

#### < 「理解する」 >

計画をたてたり形式化したりすることはたやすいことだが、人々の複雑な生活を理解するのは難しい。しかし、「理解する(understanding)」ということが、何よりも大切である。今日の様々なプロジェクトはある1つの解決策を導入しようとしがちだが、解決策は1つではない。資源(もの)さえあれば、貧困者は自分たちで工夫しながらやっていくのである。どの地域にも、社会的・経済的・政治的・物質的な要素があり、これらが複雑に絡み合っている。よって、文化人類学や経済学といった自分の専門分野だけではなく、これらすべてに注目する必要があるだろう。

#### < CODIのシステム >

政府のシステムは、トップから住民にプロジェクトが行き渡るまでに、また住民からトップに意見が届くまでに、何層もの段階を経ねばならない。そこに2、3年という莫大な時間がかかることもある。ではNGOの活動はどうかと言うと、細かい1つ1つの小さなプロジェクト(small piecesなもの)に注目しすぎていて、変化への大きな力とはならない。そのような訳で、スムスクさんはCommunity Development Fund(UCDO)を設立した。このシステムでは、政府やNGOのドナーから住民に直接お金が入ってくるようにした。

その過程で、元々それぞれの都市内に散らばっており(scattered)結びつきの見られなかったスラムを、まずCODIに結びつけた。同時に、それぞれの都市でコミュニティーを作り、それらをリンクさせてネットワークを形成した。

( 下川注1 : 政府やNGOのドナーから住民に直接お金が入るようにしたとのことだが、無償でのお金は非常に小額に限られていた。すなわち、物理的な改善のためのお金(お金が目的)というよりは、そ

れがきっかけとなってコミュニティプロセスを動かす、大きくするためのお金（小額のお金はコミュニティプロセスのきっかけになる）という位置づけで行われていた。

### < コミュニティの活動 >

今では、タイのどの都市にもネットワークができており、CODI の援助なしに自分達で様々な活動を行っているところも多々ある。その活動内容は様々で、貯蓄、タクシードライバー、住居、福祉などにわたる。

住宅環境に関する活動で、私にとって印象的だった 1 つの話を持ち上げる。そのスラムは、ある汚染された河の近くにあった。政府や他の住民は、その河が汚いのはスラムの住民のせいだとして、（立ち退かせようとした おそらく）。そこで人々は CODI の資金援助を受け、自分達で河の掃除を始め、同時に住居もきれいにし始めた。その結果、もはや住民は強制立ち退きさせられる必要はなくなったのである。

また、福祉に関するスムスクさんの説明の中で、印象的だった一言。「人々は元々自分達でやっていた。でも今ではそれを忘れてしまって、政府が彼らのために何かをやってくれるのを待っている。それではいけない。自分達でやっていたことを思い出さなければ！」

（下川注 2：このカネル（河）清掃は、Urban Community Environment Activities (UCEA) というプロジェクトの一環で、デンマークの援助で行われました。この資金援助も注 1 と同じ発想で、1 つのスラムコミュニティあたりに確か平均 25 万円くらいしか使われておらず、このプロジェクトを通して、コミュニティが如何に自分たちで自分たちの優先事項を意思決定して、それを実践するかといった、コミュニティプロセスの促進の起爆剤として多数のスラムコミュニティで行われました。詳しくは下記の HP を参照。 <http://www.achr.net/danced.htm> ）

### < 住居について >

都市の人口増加は激しく、住宅の数は政府の政策だけではとても追いつかない。だからと言って、スラム住民を田舎へ再定住させようとする、彼らの所得は下がるし、新しい住居や交通にかかる費用のために出費も増えるしで、いいことはない。そこで CODI が一番勧めているのは、Community & local partnership housing という方法。これだと social capital（社会的資本？ 社会的つながりのことだと思います。）もあるし、人々の creativity も出せる。そのような住宅には、あたたかさを感じることができる。

### < Q&A >

Q. お金を貸す際、返してもらえる団体であることをどうやって見極めるのか。

A. 政府が作った条件リストが与えられても、貧困者にとってそんなものは無意味なもの（nothing for them）。だから結局うまくいかない。リストは彼らのものなのだから、彼らが自分たちで条件・基準を作ればよい。

Q. ネットワーク作りやクレジット活動において問題はないのか。

A. 問題はたくさんある。 コミュニティーのある一部の人がお金をとってしまうことも。だから、お金を保管する人・記録する人などいろいろな係を作って、役割を分散するようにしている。

#### <特に印象的だったメッセージ>

➤ 外にある「もの」を見るのではなく、その地域の「住民」を見ること。何か始める過程では、それがとても大切である、ということをスムスクさんはおっしゃっていました。例えば私たちがスラムに行くと、衛生状況が悪いとか、教育水準が低いとか、そういった点に目が行くと思います。そこで何か活動を始めようとする、ではその1つ1つの問題を解決するためにプロジェクトを導入しよう！ということになる。これは何かというと、スムスクさんが言っていた NGO の活動そのものなわけです。では何が大切なのか。何を見るのか。その答えが「人々」ということなのだと思います。

➤ 「スラムは人々の中にあるのではない。スラムはシステムの中にあるのだ。そのシステムが貧困者を閉じ込め、抑圧しているのだ。人は皆同じ人。お金持ちもスラム住民も、違いは何もない。必要なことは、閉じ込められているスラムの人々を解放してあげることだ。( Slum is not in the people, but in the system! People are not different at all. We are same. Poor people are locked, and pressed. So we have to unlock them! ) 」

特に「unlock」という言葉がとても印象的でした。貧困者がどのような立場に立たされているのかということ、改めて考えさせられました。

➤ 「人々が貧しいのは、他の人が自分たちのために何かしてくれるのを待っているからである。しかし、ひとたび自分たちのお金や自分たちの基金を持てば、彼らは強くなる。自分たちで行動を起こすことができる。ここでのお金というのは、ただの社会的道具に過ぎない。そのお金を自分たちの生活のためにどう使っていくかということを考えて行動していく中で、人々がつながり、ネットワークが形成されていくのだ。( People are poor because they ask somebody else to help. But once they have their own money and funds, they can do by themselves and they become stronger! Money is just the social tool. )」

「自分たちで始める、行動していくということ」がいかに大切なことであるかをひしひしと感じました。「誰かが何かをしてくれるのを待っている」という意味では、日本人である私たちもずいぶんと貧しいなと思います。

#### <スムスクさんにお会いして思ったこと>

1. 感動した。「人々」なんだ。人々はできるんだ。可能性を持っているんだ!!

2. 私は自分を信じてなくて、他人の力も信じてなかったところがあった。人との共同作業で何かができるってのも、頭では分かっているけどどこかしっくり来なかったし。でも、私にもできる。そして彼らにもできる!!これだっ。

(下川後書き)

この講演の翌日、スムスク女史が個人的にある学生に「将来、途上国関連で働きたい人は、若いうちにまずどこかの現場(一つのスラム)にきちんと1年以上は入り込んで、そこでコミュニティーがなんなのか、コミュニティーがどう動くのかを体験で知らないと、将来そのようなコミュニティープロセスを潰していくような、よくありがちな開発専門家にしかならない」「最初から上のレベルで働き出すと絶対にコミュニティーに行かなくなるので、そんな人は People's Process の発展にはかえって悪影響を及ぼすようになる」「自分の将来の安定を考える人は私はいない。その人は次第に貧困者が離れていく」などなど、繰り返し話してました。